

円急伸、1米ドル152円台に

- 円高米ドル安が加速し、7月25日に1米ドル152円台に
- 円相場の潮目変化が意識され、日米要人発言も材料に
- 日銀の利上げ、米国の利下げが想定通り進むかが焦点

■ 円急伸、1米ドル152円台に

7月25日の米ドル円相場は1米ドル152円台を付けるなど円高が加速(図1)、背景には、①介入警戒感、②要人発言、③日米金融政策見通しの変化、が挙げられます。

①は、今年4-5月と7月に本邦当局の円買い介入が実施された模様ですが、当時の円相場157~160円辺りが円安のメドということで円安一巡の見方は多くありました。

②は、日本で17日に河野デジタル相、22日に茂木自民党幹事長が相次ぎ「利上げを検討すべき」と意見表明、9月自民党総裁選出馬も噂される両者が、円安の弊害を意識しての発言だけに材料視された模様です。米国では11月大統領選に向け優勢を保つトランプ前大統領が「米ドル高が問題」と指摘、同氏は選挙公約で「金利を引き下げる」とも述べており、市場も反応したようです。

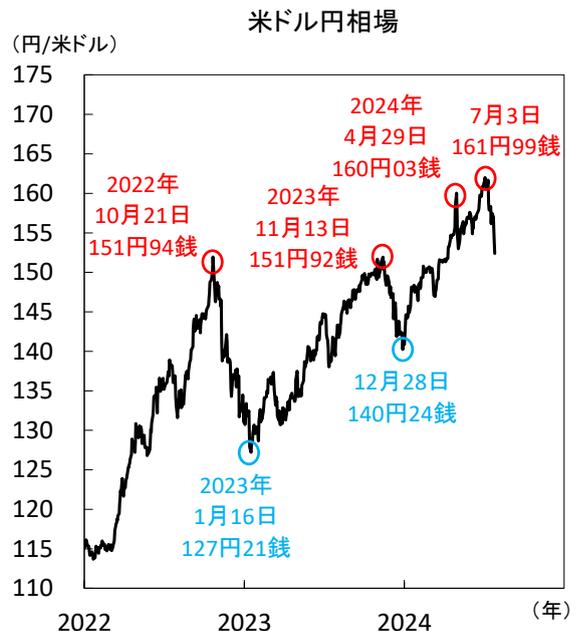
③は、金融市場の焦点であった日本の追加利上げ、米国の利下げ開始が近づいてきたことです。次週、日米ともに金融政策会合を控えますが、日銀は今回、前回6月会合で予告した国債買入れ減額を決定、9月か10月に追加利上げに動くとの見方が強まっています。米国は金利据え置き濃厚も、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の議会証言後、9月利下げ開始がほぼ織り込まれています。

■ 日銀利上げ、FRB利下げは想定通り進むか？

投機筋の円ポジションを見ると、対米ドルでの売り越し額が過去最大規模(2007年6月:18.8万枚)に膨らんでいたこともあり、これらが格好の円売り手仕舞いの材料となった可能性があります(図2)。2007年6月~2008年3月の円売り手仕舞い局面では約28円(124円16銭→95円71銭)、2022年10月~2023年1月局面も約25円(151円94銭→127円21銭、図1)円高が進んだため、今後ポジション修正が本格化すれば140円近辺への回帰もありえます。

ただし、日本の消費回復が遅れるなかで日銀が利上げ出来るか、FRB(今年6月時点の年内利下げ予想は0~2回)が市場想定(2~3回)通りに利下げするかは不透明です。急速な円安局面が一巡した感はあるものの、長期円安トレンド終えんとの判断は早計とみます。(瀧澤)

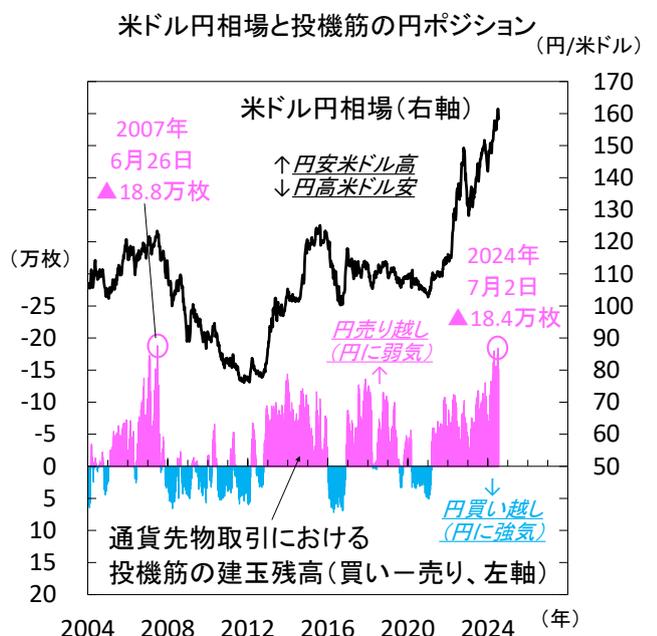
【図1】円相場は7月25日に1米ドル152円台に、3週間余りて約10円程度、円高米ドル安が進行



注) 凡例は節目となったザラバの値(赤は円安値、青は円高値)。直近値は2024年7月25日(日本時間午後3時時点)。

出所) LSEGより当社経済調査室作成

【図2】投機筋の円売りポジションが巻き戻せば、短期的に円高米ドル安が進む可能性に注意



注) 投機筋の建玉残高の値はCFCTC(米商品先物取引委員会)。直近値はすべて2024年7月16日(週次)。

出所) LSEGより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘を使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会